

令和5年度第1回 蕨市まち・ひと・しごと創生総合戦略有識者会議 会議概要

■日 時 令和5年7月28日（金） 午前10:00～11:40

■場 所 中央公民館1階・講座会議室

■出席者（敬称略）

委 員：林 大樹、植田 富美子、岡本 和子、長谷川 浩司、阿部 浩典、池田 憲一、
新井 護、笹渕 敏子

（欠席者）永沢 映、田中 雅子

頼高英雄市長

事務局：阿部 泰洋（総務部長）、佐藤 則之（総務部政策企画室長）、
島田 雅也（政策企画室主幹）、石黒 沙織（政策企画室主査）
藤田 睦子（政策企画室主事補）

■次 第

1. 開会

2. 市長あいさつ

3. 議題

- （1）蕨市まち・ひと・しごと創生人口ビジョンの現状について
- （2）改定蕨市まち・ひと・しごと創生総合戦略実施状況について
- （3）その他

4. 閉会

■内 容

【開会】

【市長あいさつ】

【議題】

- （1）蕨市まち・ひと・しごと創生人口ビジョンの現状について
事務局から、「蕨市まち・ひと・しごと創生人口ビジョンの現状について」（資料3参照）
を説明した。

委 員：若い独身の方は蕨市に転入するが、ファミリー世代は転出していく。アットホー

ムな住みよいまちであるのに転出してしまう理由は、どのようなことが考えられるか。

事務局：個々の具体的な詳細は把握していないが、一般論として、住宅の供給事情等が影響しているものと考えられる。なお、30代は転出が超過しているという説明をしたが、決してこの世代が転出していただけということではなく、転入者の人数も一定数はあることがわかる。

委員：再開発で建てられるタワーマンションでは、ファミリー向けの住戸が多く供給される。何年かすると、年齢の構造も変わってくるかもしれない。蕨は素晴らしいまちだが、昔からのお店も減ってきている。外国人も増えているが、外国人で優秀な方もたくさんいらっしゃるので、言語の問題等はあるが共存していきたい。また、長期的に若い方に蕨市に住んでもらうために、自治会も一緒に取り組み、人口はなるべく横ばいを保っていきたいと考える。

(2) 改定蕨市まち・ひと・しごと創生総合戦略の実施状況について

事務局から、「改定蕨市まち・ひと・しごと創生総合戦略の実施状況について」(資料4参照)を説明した。

委員：最近の市立病院は、外来の患者さんが多く見受けられ、大変うれしく感じている。1日も早くきれいに建て直されれば、他市の病院に患者が流れることがなくなるのではないかと感じる。

会長：常勤医師も確保できているため市立病院を受診する市民が増えていると思う。

事務局：新型コロナウイルス感染症対応で発熱外来を開設していることや、また、中国語が話せるスタッフを配置するなど地域の特性を生かしたソフト面の取組も影響しているのではないかと考える。

委員：児童・生徒の学校生活をサポートしてくださる方々を登録するための人材バンクの活用状況はどのようなか。

事務局：学校応援団として、ボランティア活動してくださる方を登録している。現在、新型コロナウイルスの影響で活動がストップしているところが多いが、最近では、塚越小学校の水泳の授業にサポートで入ってもらった事例などがある*。

※会議中には回答できなかったため、後日事務局にて確認したもの。

委員：英語教育の充実については、現在、大学受験に関しても英検が重視されていることもあるので、高校生についても対象にしたらよいのではないかと提案したい。

- 委員：現時点での市立病院の建て替えスケジュールはどのようなか。
- 事務局：まずは、現地での建て替えか、別場所での建て替えかの検討を行う予定であるが、どの方法かによってスケジュールは変わってくる。
- 委員：市立病院の建て替えは市長マニフェストでも掲げられているが、その関係のなかではどのような工程か。
- 事務局：市立病院の建て替えについては、市長マニフェストの方針に従って、担当において工程を検討しているところであり、今年度中に方向性を決定する予定である。
- 委員：地域活性化、人口定着を目指すのであれば、地域で活躍する事業者が定着することが重要なファクターであると考えているが、現状ではまだ支援が少ないように感じる。今後の戦略のなかで事業者への支援も打ち出していくことが必要ではないかと考える。
- 委員：市の上位計画を策定するにあたり、人口推計に関しては、社人研のものを使用しているのか。また、人口減少は何年度から始まると見込んでいるか。
- 事務局：現在取り組んでいる、新たな「将来ビジョン」の策定においては、社人研の推計を参考としている。人口減少の見込みについては、日本全体が人口減少する中にあっても社会増減は様々な要因により変動するため、一概に将来予測は難しいが、新「将来ビジョン」の計画期間である今後10年程度の間では、大きな人口減には至らないものと想定している。
- 委員：学童保育の待機児童の現状はどのようなか。
- 事務局：今まで蕨市では公立の学童室しかなかったが、近年は、民間も参入しており、公立に入れなかった場合など、民間の学童室がその受け皿にもなっている。
- 委員：安全で安心して暮らせるまちとあるが、道路を車で走っていると、県道に比べて市道はガタガタするところが多いと感じる。車道だけでなく、歩道に関しても障害者や子ども連れなどに優しくないと感じる。
- また、「河鍋暁斎」は、蕨にとってとても大事な地域資源であるので、もっと大きく取り上げてPRすべきであり、目の前のことだけでなく、将来的なにぎわいづくりに繋げていくことが大切である。
- 委員：2025～2030年には、高齢者の5人に1人は認知症になると世間では言われているが、蕨市も高齢者が多いので、認知症対策は重要である。認知症への対応で一番大変なのは徘徊であり、多くの家族の方が大変な思いをしているので、市で行っているGPS利用料の助成や認知症に対する理解について、広く多くの

方たちに情報が行き渡るようにしてほしい。

事務局：助成制度については、介護保険室やケアマネジャーがご案内をしており、あわせて、毎年9月号の広報などでもお知らせしているところであるが、引き続き周知に取り組みたい。

委員：観光に関する取組、産業育成・振興の取組については、計画などにも一層強化し謳っていく必要を感じる。また、蕨ブランドについて、「まるまるひがしにほん」のような一過性のイベントのみに止まらず、継続的な産業の育成・発展に繋がるような展開をしていくことが重要と考える。

また、先日、中学校でまちづくりの課外授業を行ってきたが、「蕨市が好きか？」と聞いたところ半分程度の子しかいなかった。このため、子どもたちから蕨市について知ってもらい、地域に愛着を持ち、蕨市に住み続けたいと思ってもらうことが重要であると考えます。

委員：中学生ワーキングウィークは、コロナ禍の影響で受け入れてくれる企業を探すのも大変であったようだが、こういった体験は社会に出た時に役立つ貴重な経験であると思うので、是非続けてほしい。

委員：先日開催された「わらてつまつり」が大盛況であったが、市内にはNゲージを作っている企業もあり、130年の蕨駅の歴史もある。こういったことを打ち出してPRしていく必要がある。

委員：蕨駅から新幹線が運ばれていったという歴史も、市外にはあまり広く知られていないと感じた。先ほど話題に上がったNゲージなども含め広く伝えていったほうが良い。

また、学校で地元の歴史について子どもたちに知ってもらう機会を設けることも重要と考える。

【その他】

事務局より、今回頂いたご意見を基に会議録と意見書を取りまとめ、皆さんにご確認いただいた後、市ホームページでの公開と意見書の提出を行う旨を説明した。

以上